

きのこ栽培文化の世界

The World of Mushroom Cultivation Culture

朝田 郁*

発表要旨

本発表の目的は、海外のきのこ栽培文化と、その多彩な技法を紹介することである。ホビーとしてのきのこ栽培は、日本では文化と呼べるほど社会に浸透しているとは言い難い。一方で世界に目を向けると、栽培を趣味とする人たちが集うきのこフォーラムが Web 上にいくつも存在しており、活発な議論が日夜おこなわれている。そこで海外のきのこ栽培文化を取り上げ、その概要と栽培手法についてお話ししたい。

発表では、まず栽培文化の成り立ちに注目する。なぜ海外においては、商用栽培とは異なる形で、きのこ栽培文化が一般に広まっているのであろうか。その背景には複数の理由があるが、今回はアメリカのある栽培家による、10年にわたる地道な啓蒙活動を中心に紹介したい。彼の献身的な仕事に対しては、あまりに悲劇的な結末が待っていたのであるが、その努力は家庭における栽培技術の発展に寄与した。そこで、きのこ栽培文化が成立するまでの大きな流れを、この栽培家の活動を通して検討する。

続いて、世界のきのこフォーラム上で試みられている、ユニークな栽培技術について紹介したい。海外のきのこ栽培の趣味家は、基本的な技術をアメリカの菌類学者であるポール・スタメッツの書籍『*Growing Gourmet and Medicinal Mushrooms*』に負っている。スタメッツ自身は日本の商用きのこ栽培に多くを学んでいることから、私たちにとって身近な栽培技法と世界のそれとは、実は地続きなのであるが、一方で海外でしかおこなわれていない栽培方法も少なくはない。特に Web 上のきのこフォーラムでは、独自に考案された技法が広く共有されており、それらを「テック」と呼ぶ文化がある。そこで発表時間の許す限りにおいて、テックの奥深さについても触れる。

コロナ禍においては、きのこ観察の活動が自由にできないためフラストレーションを感じることも多い。そのような中でも、家庭内で自分の手で子実体を発生させることができる面白さ、またその活動を取り巻く人々の営みについて考えることで、きのこ栽培文化の多様な世界を垣間見てみたいと思う。

*京都大学アフリカ地域研究資料センター特任助教（メール：akira.asada@gmail.com）。